

## 公益社団法人やどかりの里 2020年 寄付のお願い

### COVID-19 感染拡大

#### 障害のある人たちの働くこと・安全に暮らすことを支える

やどかりの里は、1970年、病気がよくなっても精神科病院での入院が余儀なくされていた人たちの「地域であたりまえに暮らしたい」という願いから出発しました。精神障害者は、1988年に精神保健法が施行されるまで福祉の対象ではなく、やどかりの里も長く財政難に見舞われながら、多くの人たちの支えによって活動を存続させてきました。

50周年を迎える今年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により新たな困難に直面しています。暮らす場、働く場で日々感染症対策に追われつつ、就労支援事業所においては、営業自粛によって販売収入が大きく減少し、そこで働く障害のある人たちにも深刻な影を落としています。

一方で従来からの困難が解消しているわけではありません。やどかりの里は、その人の願いや暮らしを不十分な制度の中にとどめさせないよう、1人1人が生き生きと暮らせる社会の実現に向けて活動を創っていきます。そのための賛同者を広く募っています。

#### 就労支援事業所への支援

やどかりの里には、働くことを支える事業所が5ヶ所あり、喫茶店やリサイクルショップ、出版事業などを展開しています。COVID-19の影響でイベント中止等による販売先の減少や営業縮小が余儀なくされ、各事業所で販売収入が大幅ダウンし、わずか3か月（2020年4月～6月）で昨年度比400万円減少しました。年間で1600万円の減収が見込まれます。

各事業所で支払われる工賃や賃金は、障害のある人たちの生活を支える大切な収入であり、収入減を跳ね返すべくさまざまな努力を重ねていきますが、自助努力だけでは限界があります。その人にあった働き方で回復を支え、張り合いを持って働き続けられるよう営業努力をしつつ、幅広い支援を求めています。

#### 安全な住まいを確保するための支援

やどかりの里が運営するグループホームの多くは、一般の住居を借り上げた形で展開しています。今年度、近年の大雨による危険を回避するための移転と、入居者の身体状況の変化に伴い環境を整えるための移転を相次いで行っています。法律上定められている消防設備の設置の他、移転に伴う費用が60万円ほどに上り、法人資金から捻出せざるを得ません。

上記の目的のため、みなさまの寄付を募っています。上記の用途に定めず、やどかりの里の公益事業全般への賛同という形でももちろん構いません。そして、できますれば、1口3,000円以上としていただけると助かります。COVID-19の影響により、今年度は従来の大バザーを見送っている状況であり、どうぞお力を頂けますよう、よろしく願いいたします。

2020年8月

公益社団法人やどかりの里  
代表理事 増田一世